

重点目標		重点課題	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針		
			31年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価	総合評価		
							学校関係者の意見		
1	①	より質の高い授業の実施	i	可動式電子黒板等のICT機器を積極的かつ効果的に活用するとともに、生徒の発言や発表の機会を増やすこと等により、より主体的で対話的な授業を目指す。	・可動式電子黒板等のICT機器を活用した各教科の授業実施割合 50%以上 ・授業における可動式電子黒板等のICT機器の平均活用時間15分以上	ICT活用状況調査の結果、授業におけるICT活用割合は86%であり、一回の授業での電子黒板の平均活用時間も27分であり、ICTの活用が進んだ。	B	B	単にICT活用時間を伸ばすのではなく、生徒の実態に合わせた学習指導法の工夫・改善を図りながら授業の質の向上に繋げる。相互参観については活発に行われるよう工夫が必要である。
			ii	学期毎に授業参観週間を実施し相互参観する。また、全日制の授業や他校で行われている公開授業等にも参加し授業改善や教科指導力の向上に努める。	・授業改善研修 年3回実施 ・相互授業参観 毎回2回以上	授業改善研修を年2回実施した。 ほとんどの教員が相互授業参観を各回2回という目標を達成した。	B		
			iii	各学期末に生徒による授業評価を実施し、生徒の実態を的確に把握することで学習指導方法の工夫・改善につなげる。	・生徒による授業評価 年間2回実施 ・生徒の授業満足度80%以上 ・生徒の授業理解度70%以上 ・生徒の授業取組真剣度80%以上	生徒による授業評価を年間2回実施し、生徒の授業満足度は85%、生徒の授業理解度は85%であった。生徒の授業取組真剣度は95%であった。昨年と比べて、授業改善の取組により授業満足度、授業理解度、授業取組真剣度ともに向上した。なかでも授業理解度は10%以上増加した。	A		
	②	漢字・計算等の基礎学力の向上	i	国語の授業で毎時間10分程度、個々のレベルに合わせた漢字課題に取り組む時間を設定するとともに、課題をふまえた校内漢字テストを年4回実施し、基礎学力の定着を図る。また、漢字検定を全員年1回受験させ、目標に向かって努力し、達成感を得る機会とする。	・漢字課題の提出率90%以上 ・漢字テスト 年間4回実施 ・生徒の取組真剣度80%以上 ・漢字検定 年1回以上全員受験 ・漢字検定合格率 30%以上	漢字課題の提出率は99%で、個々のレベルに合わせた学習を継続的に実施できた。漢字テストを年4回実施し、生徒の取組真剣度は95%であった。漢字検定は年1回全員受験を実施した。漢字検定の合格率は12.5%であった。また、希望により年2回受験した生徒が3名おり、サポートを行った。	B	B	①については、授業の相互参観や「進化する教室イノベーション事業」等の成果もあって、特にICT活用や参加型の授業展開において教員のスキルが向上した。ただし、授業公開週間の相互参観についてはマンネリ化を感じた。来年度は工夫が必要である。また、他校の公開授業への参加を積極的に勧めたい。 ②について、取組真剣度も良好な値をキープして全体的には評価指標をほぼ達成しており、一定の成果が見える。しかし、従来から生徒の基礎学力格差は大きく学習意欲が高くない生徒も多いので、個人別の学習目標を設定したり、さらに個別指導を
			ii	生徒の習熟度に合わせて課題を設定し、計算力向上講座を年間4回実施する。課題の指導には教員全員であったり、講座と連動した計算テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・計算力向上講座 年間4回実施 ・生徒の講座に対する満足度90%以上 ・生徒の取組真剣度80%以上 ・計算テストの年間平均点70点以上	講座を年間4回実施し、生徒の講座に対する満足度は90%であった。計算テストを年間4回実施し、生徒の取組真剣度は95%であった。計算テストの年間平均点は70.0点であった。	B		
	③	本に親しむ態度の育成と読書習慣の確立	i	毎週月曜から木曜に15分間の読書の時間を設定し、集中して読書する時間を確保することで、読書に親しむ機会を設ける。	・年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合50%以上	読書の時間は確保したが、年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合は30%であり、昨年度より23%下がった。	C	B	(評議員)読書の時間だけではなく、普段から読書ができるように工夫が必要
			ii	定時制読書室の蔵書充実を図るとともに、全日制図書室の利用や、授業での本の紹介・本を活用した指導により、生徒が本に触れる機会を設け、読書への興味関心を育む。	・授業やホームルーム活動での全日制図書館年間利用回数 年3回以上 ・授業での本の紹介や本を活用した指導 年5回以上	全日制図書館を年3回利用し、授業で本の紹介や本を活用した指導を年7回実施した。	A		
	④	豊かな情操と人権感覚や道徳心の育成	i	協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動を実施し、自他の人権を守ろうとする意欲や態度、行動力を育てるとともに、教員研修を充実させ、教員の人権意識の高揚と指導力の向上を図る。 また、「池定人権新聞」を発行し、保護者が本校の人権教育活動への理解を深められるよう努める。	・協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動 年4回実施 ・外部講師による講演会 年1回実施 ・生徒アンケート「人権問題解決への意欲が高まった」肯定的回答割合 80%以上 ・人権教育に関する教員研修 年7回以上実施 ・「池定人権新聞」の発行 每学期1回	ホワイトボードやICTを活用し、グループワークによる協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動を年4回実施した。「人権問題解決への意欲が高まった」と回答した生徒は80%であった。また、本校スクールカウンセラーによる講演会を年1回、人権教育に関する教員研修を年7回実施した。「池定人権新聞」は每学期1回発行し、学習内容や生徒の様子を保護者に紹介できた。	B	A	④については自尊感情や道徳的行動に関するアンケートを新規に導入し生徒理解に活用するなど充実した教育活動が展開できた。高校人権教育研究大会やあわ教育発表会で人権や道徳に関する取組について発表し、他校からも高い評価を得た。
			ii	生徒の些細な変化について注意深く観察し、全教員での情報の共有を徹底するとともに、学期毎に「高校生活アンケート」を実施し、いじめ等の問題行動の未然防止や早期対応につなげる。また、いじめに関するホームルーム等を実施し、いじめの起こらない学校作りに努める。	・いじめに関するアンケート調査 年3回実施 ・いじめに関する教職員研修 年1回以上実施 ・いじめ防止に関する生徒への啓発活動 年3回以上実施 ・いじめに関するHR活動 年1回以上実施	生徒の行動等を日頃から観察し、変化・兆候があった場合教職員全体で共有し、いじめ等の問題行動について未然防止・早期対応を図った。いじめに関するアンケートを年3回実施し、いじめ認知件数は0件であった。	A		
			iii	道徳心(より良く生きるための態度や能力)の育成を全教育活動の中に位置づけ、自尊感情や道徳的態様の向上を目指す。また、新たな評価手法を導入し、生徒の状況把握と事業や授業の改善に生かす。	・新しい評価手法の開発・実践	自尊感情に関するアンケートの導入、及び道徳的態度・行動アンケートの作成を行い、年4回実施した。結果を分析するとともに、全教職員で情報共有し、生徒の状況把握や支援に活かした。	A		
			iv	ゴミの分別の徹底、電気や水道使用量の調査活動を通して、省エネや環境保全に対する意識を向上させる。	・内部評価による実態調査 18点	生徒会が水道・電気使用量の調査とゴミの分別をチェックした。その結果を全校集会で反省点や改善点を発表することで、節電・節水・ゴミの分別に対する意識が定着してきた。内部評価は18点であった。	B		

⑤	基本的な生活習慣の確立	i	体調管理や時間を守ることを大切さについて説き、欠席や遅刻を減らすことを意識させる。	・体調管理・時間厳守に関する生徒への啓発活動 年5回以上実施	・全校集会等の後、啓発活動を行った。昨年に比べ欠席・遅刻は少なくなった。	B	B	⑤についてはことある度に生徒に指導している。基本的な生活習慣に対する意識は上がっているが、実践や行動に結びついていない部分がある。根気強く指導していく必要がある。 ⑥スクールカウンセラーと連携しながら、個々の生徒に寄り添った教育相談を養護助教諭を中心に日常的に行うことができた。		規則正しい生活習慣と社会にでるためのマナーや態度について根気強く指導していく。また、健康課題に応じた啓発を続けることによって、自身の課題に気付く行動に移すことのできる生徒を育成する。
		ii	挨拶や言葉遣いについて繰り返し説明し、目上の人や社会に出たときのマナーを身につけさせる。	・挨拶・言葉遣い・マナーに関する生徒への啓発活動 年5回以上実施	・全校集会等の後、啓発活動を行った。昨年に比べ挨拶・言葉遣いがよくなった。	B				
		iii	保健便りや食育便り等の発行や「健康力アップ30日作戦」を実施することで、自身の課題に気づき、生活習慣を見直し実行していくことのできる生徒を育成する。	・生活実態調査の実施 ・保健だよりの発行 年11回 ・食育だよりの発行 年3回 ・「健康力アップ30日作戦」実施後のアンケートで「健康を意識した生活がしたい」肯定的回答割合 80%以上	「保健だよりの発行」を年11回、「食育だよりの発行」を年3回発行した。生活実態調査の結果から生徒の健康課題に応じた情報を掲載し、配付時に全体指導を行った。夏季休業中に生活を振り返りチャレンジ内容を設定し実践する「健康力アップ30日作戦」を行った。「チャレンジ内容を達成できた」生徒は60%であったが、95%の生徒が「今後も健康を意識した生活をしたい」と回答した。	B				
		iv	薬物乱用防止教室を実施し、薬物の身体に及ぼす影響について正しい知識を生徒に提供することにより、薬物乱用の防止を図る。	・薬物乱用防止教室 年1回実施	薬物乱用防止教室を7月に実施した、普段の学校生活のいろいろな場面において、薬物の危険性等について指導した。	B				
⑥	特別支援教育の推進と教育相談体制の充実	i	週1回「脳トレの日」を設定し、全生徒に認知機能強化トレーニングを実施する。	・特別支援教育の視点を大切に、生徒が不安感なく取り組めるように工夫する ・毎回の記録を保存し振り返ることで、意欲付けを行う ・課題量を限定し、ゲーム感覚で楽しみながら継続して取り組むことができるように工夫する	継続して誰もが実施できるよう、問題シート、解答用紙、パワーポイント、実施方法の手引き等を準備した。またICTを活用し視覚的に説明したり、初めての課題は教員が一度見本を見せる等、不安感なく取り組めるよう工夫した。	B	B	(保)担任の先生がよく話を聴いてくれる。 (保)子供を知り、その子にあった指導をしてきている。 (保)親子共々相談に乗ってもらった。	次年度も引き続き、スクールカウンセラー等と連携しながら、生徒・保護者が相談しやすい環境作りに努める。また生徒の内面理解を深める為、職員研修を実施する。認知トレーニングについては、すぐに効果があるものではないが継続して実施したい。	
		ii	教育相談週間の設定や、職員研修会を実施し、生徒の心の問題についての理解を深め、生徒の心のサインを見逃さず支援していくため、校内連携体制を整える。	・教育相談週間 年3回実施 ・職員研修会 年1回実施 ・生徒アンケートで「先生はよく相談にのってくれる」肯定的回答割合 80%以上	教育相談週間を学期に1回設定し、年3回実施した。スクールカウンセラーによる職員研修では学校だからできる自尊感情の育て方について学んだ。「先生はよく相談にのってくれる」と回答した生徒は90%であった。	B				
		iii	スクールカウンセラーと連携し、個人面談や「相談だよりの発行」を活用した全体指導を行うことにより、心の健康の保持増進を図る。	・新入生を対象とした個人面談の実施 ・メンタルヘルス講演会 年1回実施 ・相談だよりの発行 年10回	新入生に対する個人面談や、生徒対象の講演会、相談だよりの発行を年11回発行し、配付時には全体指導を行う事でスクールカウンセラーが生徒にとって身近な存在になっている。	B				

重点目標	重点課題	自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
		31年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
2	① 進路意識や勤労観の育成	i	担任による個別面談を実施し、生徒が進路について具体的・主体的に考え行動する姿勢を育てる。また、保護者を含めた三者面談を夏季休業中に実施し、進路に対する保護者の要望把握に努める。	・個別面接 年間5回以上実施 ・三者面談（進学・就職）夏季休暇中に実施する	適宜、全職員による個別面談を実施し、夏季休業中の三者面談もすべて実施した。保護者アンケートで、三者面談の満足度が94%だった。	B	B	今後も外部講師招聘や企業見学を出来るだけ多く取り入れることにより生徒の意識の向上を図り、見学については生徒の実態に応じた職種や事業所の選定をしていきたい。
		ii	進路ガイダンスや進路に関するホームルーム活動等を実施し、生徒の進路選択への意識を高めるとともに、ハローワークや全日制的進路指導課とも連携を図りながら、教育活動全体を通じて、計画的・組織的な進路指導を行う。	・進路ガイダンス及び進路に関するホームルーム活動 年2回以上実施 ・必要に応じて、希望者にオープンキャンパス参加や職場体験させて確実な進路先決定に繋げる	進路ガイダンスや地域の事業所から外部講師を招聘した進路に関するHR活動は年に計2回以上実施した。個別の職場見学を適宜実施し、進学を希望する生徒には情報提供を行い、オープンキャンパス等も参加させた。	B		
		iii	企業見学や就業体験を実施し、生徒に社会人・職業人としての立場を経験させ、働くことへの関心・意欲を高めるとともに、正しい職業観・勤労観を育てる。	・企業見学 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「勤労意欲が高まった」肯定的回答割合 80%以上	職場見学を年2回実施し、4つの事業所を訪れた。生徒アンケートでも「キャリア教育を通じて勤労意欲が高まった」と回答した生徒は85%であった。	A		
	② 仕事と学業の両立	i	生徒一人ひとりに適した就労先（アルバイトを含む）を斡旋し、職業の体験を増やし、正しい勤労観を育てる。	・就労率65%以上	生徒の希望に沿って就労先を斡旋し、アルバイト就労率は85%であった。	A	B	(保)アルバイトの紹介をしてくれたことに感謝している
		ii	夜間定時制高校生として、仕事と学業の両立が達成できるような指導を行う。また、定期的に生徒の就労先に連絡を取り、勤務状況等を的確に把握し、仕事と学業の両立ができるように雇用主とも連携を密にして適切な支援を行う。	・学期1回程度 生徒のアルバイト先訪問の実施	各学期に1回以上生徒のアルバイト先を訪問し、全職員で個別面接指導も実施し、勤務状況等の把握に努め、仕事と学業の両立の支援に繋げた。	B		
	③ 社会人として求められる能力や態度の育成	i	全ての教育活動を通して、社会的自立に必要なコミュニケーション能力や社会人としてのマナーの育成に努める。外部講師によるビジネスマナー教室等も実施する。	・ビジネスマナー講習会 2回実施 ・ハローワーク学卒担当者招聘 ホームルーム1回実施	全職員によるマナー指導の徹底と共に、外部講師によるビジネスマナー研修会を年2回実施した。ハローワークの学卒担当者を招聘したHR活動も年1回実施した。	B	B	(評議員)とありあえず、学校に登校さえしていれば、社会性も少しずつ身につけていこう。定時制には色々な背景の生徒がおり難しいと思うが、一人一人を大切に今後とも頑張って欲しい。(保)相談したことを実現する手伝いをしてくれた。(保)将来の進路について先生方が熱心に面倒を見てくれた。
		ii	商業や情報の授業の他に、総合的な学習の時間にも各種資格取得に向けての支援講座を設け、生徒が必要とする職業能力の養成を図る。	・ビジネス文書実務検定 合格率 60%以上	ビジネス文書実務検定の合格者は分野別合格を含めて48%であった。	B		
		iii	総合的な学習（探究）の時間やホームルーム等では全学年合同の協働的な学習や活動を積極的に取り入れ、チームとして問題や課題を解決する能力と態度を養う。	・協働的な学習及び活動実施時数 各学期2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「総合的な学習の時間は充実している」肯定的回答割合 80%以上	協働的な学習及び活動を各学期で平均3回実施し、生徒アンケートでも「総合的な学習の時間は充実している」肯定的回答割合が85%であった。	A		
	④ 進路希望の実現	i	ハローワーク等の関係機関と連携を密にする。特に県内企業の求人が少ないため、積極的に企業訪問し開拓に努め、生徒に情報を提供する。	・生徒や保護者の要望に応じて、ハローワーク、企業その他の関係機関への訪問を随時行い、連携を密にする。 ・保護者アンケート「学校は、就労について支援をしてくれている。」肯定的回答割合 80%以上	ハローワーク、企業その他の関係機関への訪問を随時行い、連携を密に図った。保護者アンケートでは、就労支援の満足度が100%だった。	A	A	就職については地元企業求人が少ないのでハローワークや商工会議所等、連携して行きたい。また、進学希望者が増加傾向にあるので情報収集に努め、入試改革等にも対応できるように準備しておく必要がある。
		ii	進学を希望する生徒に対しては、全日制的進路指導課と連携しながら早期に情報を収集し、指導体制を整え対応する。	・進学情報を早期に収集し、生徒個々に必要な支援を行う。	進学情報の提供や入試対策課題など、生徒個々に必要な指導・支援を行った。	B		
		iii	就職試験や大学入試における面接や小論文の対策は担任を中心とした全教員があたり、生徒個々の状況に応える。	・全日制進路課 進学情報を共有し、全教師が指導にあたる	全日制進路課と連携しながら、職員全体で生徒の進路に応じた試験対策や面接指導を適宜行った。	A		

令和元年度(平成31年度) 徳島県立池田高等学校 定時制 学校評価総括表 3

「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点目標		重点課題	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針				
			31年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価	総合評価				
3	生徒が主体的に地域社会と関わり、地域との結びつきを深める中で、地域とともに歩む学校づくりを進める。	① 本校教育活動の公開と普及	i	学燈祭や授業等を積極的に公開するとともに、地域における美術作品展及び学習展を開催し、地域社会からの本校教育活動に対する理解を深める。	・学燈祭及び本校学習展の来場者合計 130人以上 ・生徒対象学校評価アンケート「学燈祭が充実している」肯定的回答割合 80%以上	学校祭及び本校学習展における把握できた来場者の合計は137人であり、評価指標を達成した。生徒アンケートの「学燈祭」満足度は95%だった。	A	B	(評議員)プレスボに展示しているときに作品展を見させてもらった。いい作品が多かった。	美術作品の展示方法や広報活動の改善を図る。また、アンケート等も見直し、活動の雰囲気や生徒の変容等を振り返り事業の改善に繋げる。	
			ii	ホームページの更新を積極的に行い、最新の情報提供と内容のさらなる拡充に努める。また、学校紹介用の資料やスライド等を作成し、保護者や学校関係者への情報発信に繋げる。	・学校紹介用スライドの作成 年1回以上。 ・ホームページの更新 月平均3回以上 ・生徒の個人情報の確認 常時	学校紹介用スライドを年1回作成した。ホームページの更新をタイムリーに月平均3回程度更新した。適宜確認しながら生徒の個人情報の保護に努めた。	B				
			iii	校誌「学燈」や「池定通信」を発行・配布し、本校の活動状況を保護者や関係機関に情報提供することにより、本校教育活動への関心を高め理解を深める。	・「学燈」の発行 年1回 ・「池定通信」の発行 毎学期1回 ・保護者や関係機関への配布 年1回以上	「池定通信」年3回、「学燈」年1回発行し、地域での様々な教育活動や学校での生徒の取り組みを発信できた。また、定時制振興会員への配布も行った。	B				
		② 地域の人材・組織等との連携	i	美術作品制作の際に、地域の専門家を外部講師として招聘し、地域の教育力の活用を図る。	・地域の外部講師招聘 2名以上	地域の芸術家を2名、外部講師として招聘し、美術作品の制作に取り組み、定通連美術作品展で5部門6作品が入賞した。	A	B	校人権教育大会、あわ教育発表会等で本校の教育活動を多くの先生方の前で紹介した。②については、地域の方達と連携しながら、地域の美化活動、防犯パトロール、被災地支援等の活動を実施できた。③については探究活動のテーマに即して、「自然環境」「防災」「四国遍路」「エンカル消費」等の特別講義を行った後に、調査・まとめて発表会を実施した。学年が進むごとに、クイズをまじえたり、ICT機器を活用するなど発表方法やスキルの向上が感じられた。主権者教育や消費者教育などでも専門家を呼んで講演会も実施した。今後もこれらの活動を通して社会人として必要な能力や資質の向上に努める。④については夜間の避難訓練やAED講習等の防災や救急処置に関する教育を実施した。地域防災に対する活動や被災地支援等も継続的に実施しており、その成果が認められ令和元年度「徳島県まなぼうさい活動賞」徳島県知事表彰を受けた。	(保)定時制から社会に出るための環境を整えてくれている。企業の方やボランティアなど多くの方々と出会う、そして学ぶ機会を与えていただいで感謝している。	地域交流の機会を増やし、社会の一員という自覚と態度を高める。また、生徒の主体性を高められるように工夫が必要である。
			ii	地域社会に関する課題を設定し講師を招聘して特別講義を実施し、郷土の伝統や文化、風土等に対する理解を深め、郷土愛を育てる。	・大学その他関係機関の外部講師招聘 3名以上 ・生徒対象学校評価アンケート「地域を知る学習に積極的に参加できた」肯定的回答割合 80%以上	大学その他関係機関の外部講師を招聘し、地域に関する学習を実施した。生徒アンケートの「地域を知る学習」満足度は70%だった。	B				
			iii	地域の警察と連携した合同パトロールを実施し、交通安全や特殊詐欺防止の啓発に努める。	・夜間防犯パトロール活動 年3回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防犯パトロールに積極的に参加できた」肯定的回答割合 80%以上	「池定・地域まもり隊」として夜間防犯パトロールを年3回実施した。生徒アンケートで防犯パトロールへの活動意欲度は95%だった。	B				
		③ 地域との関わりや結びつきを深める活動	i	地域に関するテーマを各学年で設定し、課題研究を実施して研究発表会を開催するとともに、その成果を展示する。	・学習研究発表会 年1回以上 ・学習研究の成果の展示 年2回以上	全学年が個々の研究テーマを設定して探究活動を行い、学習研究発表会を年1回実施し、成果の展示も年2回実施した。	B	B	研究テーマを広げ、探究活動に対する生徒の主体性を高めたい。清掃活動の場所を見直すなど、本当に地域貢献に繋がっているかどうかを見きわめながら、地域の状況に応じた活動を行う。		
			ii	「池定・地域まもり隊」の活動のさらなる活性化を図り、地域社会の安全等、住みよい町づくりに貢献するとともに、被災地等への支援や交流活動を行い、ボランティア精神の育成に繋げる。	・被災地等への支援・交流活動 年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「被災地支援活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合 80%以上	地域の子どもたちが社会貢献活動を体験するイベントにも年1回参加した。生徒アンケートでうちわづくりへの意欲度は95%だった。	B				
			iii	地域社会における清掃活動やリサイクル支援活動等を実施し、生徒の環境に対する意識や関心を高め、地域の環境美化及び環境保全に貢献するとともに、地域社会の一員としての自覚と態度を育てる。	・地域の美化活動 年間3回以上実施 ・廃食用油リサイクル支援活動 年間1回以上実施 ・生徒対象学校評価アンケート「地域の清掃活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合 80%以上	地域のゴミ拾い等の美化活動を年3回実施し、廃食用油リサイクル支援活動も年1回実施した。生徒アンケートで地域の清掃活動への意欲度は95%だった。	B				
	iv		主権者教育に関する講演会や学習活動等を実施し、生徒に主権者としての政治的教養を身に付けさせるとともに、他者と連携・協働しながら社会参画しようとする意欲と態度を育てる。	・主権者教育に関する学習 年2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「選挙や政治について関心が高まった」肯定的回答割合 80%以上	大学と連携した授業を含め、主権者教育に関する学習活動を年2回実施した。生徒アンケートで選挙や政治への関心度は80%だった。	B					
	④ 防災教育と救急処置体制の確立	i	全国瞬時警報システム（Jアラート）を活用した夜間避難訓練を実施し、生徒に災害発生時の行動様式を身に付けさせるとともに、防災・減災に関する知識や助け合いの精神を育てる。	・夜間避難訓練 年1回実施（5月） ・防災教育に関する学習活動 年2回実施	Jアラートを活用した夜間避難訓練を年2回実施した。防災学習ホームルームも年2回実施した。生徒アンケートで防災への関心度は85%だった。	B	A	より実践的・体験的な学習形態を計画し、防災意識を高める。			
		ii	全生徒・全教員に対し地元の消防署員による「AEDを含む救急処置実技講習会」を実施するとともに、事故災害発生時の対応について教員間で共通理解を図る。	・AEDを含む救急処置実技講習会 年1回実施 ・AEDを含む救急処置ができる教員 90%以上	4月に全生徒・教職員を対象に池田消防署員によるダミーを使用してAED・救急処置実技講習会を実施した。100%教職員が救急処置ができると回答した。	A					
iii		防災に関する活動や授業を実施し、自他の命を大切にするとともに、災害時に適切な意思決定や行動選択ができる生徒を育成する。	・夜間避難訓練や防災教育に関する学習 年2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防災に関する理解が深まった」肯定的回答割合 80%以上	防災教育に関する学習を年2回実施した。生徒アンケートで防災への理解度は85%だった。	A						